



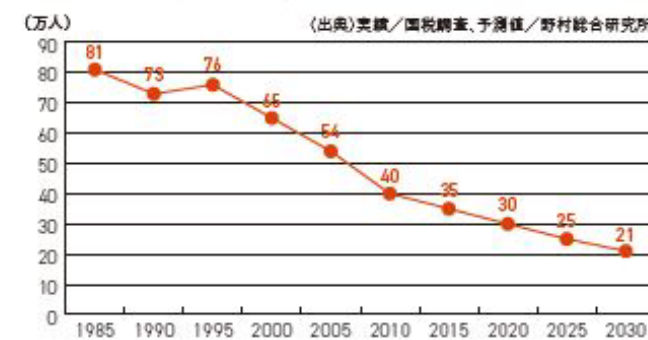


# 実践と理論を同時に学べる オリジナルプログラムで大工を育成



紳工房生は、入社前にインターンシップを実施。性格や個性の合うベテラン大工を確認した上で、「指導棟梁」とマッチングします。現場では、技術や知識はもちろん大工における哲学まで学びます。

大工の人数の実績と予測結果



大工の知識や技術を継承するためのプログラム  
少子高齢化社会となり、大工の人材不足が深刻化。要因は複数ありますが、主には労働環境や育成力不足が挙げられます。当社の現場でも、同様の問題が起こっていました。そこで、大工育成を通して高品質なヤマサハウスの家づくりの技術を継承し、お客様が安心して心地よく暮らせる家づくりをご提供し続けていくために、2017年、「紳工房ヤマサ」が設立されました。

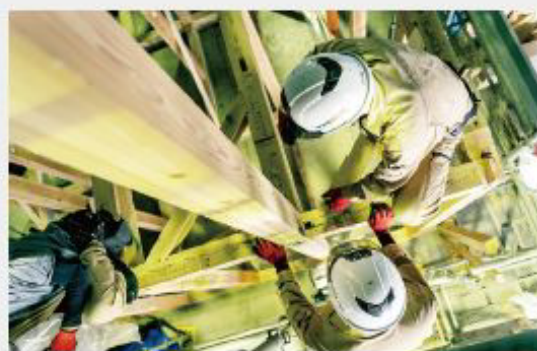
「紳工房ヤマサ」では、約3年間、指導棟梁のもとで働きながら仕事のやり方を学びます。また、同時に組まれるのが実習や座学などのプログラム。このプログラムには、大きく分けて3つのポイントがあります。

1つ目は、労働環境の改善。紳工房ヤマサでは、安定した固定給に加え、充実の福利厚生を整えています。

2つ目は、成長を促す環境づくり。入社後の3年間で9クールに分けて、各クールごとに技能判定を実施します。また、実践と理論を反復して学べるよう定期的な座学研修も開催。

3つ目は、ICTの導入。オリジナルの動画などを用いて、施工技術を学ぶことができます。さらに、専任のサポートスタッフが付き、日報をオンラインでチェック。困りごとなども相談しやすい体制を整えています。

こうした、棟梁による指導とプログラムを経て、確かな技術を習得し、国家資格である一級大工技能士を多数輩出。高品質なヤマサハウスの家づくりの技術を継承しています。



## 豊富な実習機会

入社時研修では、新入社員が先輩社員に教わりながら、模擬住宅をつくることで実践的に技術向上を図ります。こうした実践練習が技術を高め、大工としての責任感や誇りを育みます。



## 座学研修の充実

現場以外でも建築の知識を深められる座学研修プログラムは、月に1~2回開催しています。座学研修では大工としての土台をしっかりと養うほか、当社の理念や未来像など、社員として知っておくべきことを学びます。

3年間の圧倒的な成長環境  
コンセプトは  
「古くて新しい徒弟制度」



## ICTの導入

現場で学んだことを繰り返し学習する際に、プログラムでも動画や先端のツールを用いたモデリング育成を導入。場所を選ばず、知識や技術を習得できます。



育成を終え、チーム大工で活躍する新人大工の今と未来



「ものづくりが好き」  
育成・労働環境も魅力

大変な作業こそ  
大きな達成感が得られる

大工になりたいと思ったのは、高校3年の夏。「元々のづくりが好き」だったそう。絆工房ヤマサを選んだ理由は、「研修が充実していて育成に力を入れている。ワークライフバランスが整っていて、平日はしっかりと仕事に集中できる印象でした」。就職が決まると、「両親も喜んでくれました」と笑顔を見せます。

「お客様とのコミュニケーションを大事にしながら、さまざまな現場を担当する中で、初めて行う施工もあります。その度に、何度も作業工程を確認しながら、きれいに仕上がったときは何倍もの達成感が得られます」と話してくれました。

絆工房ヤマサ2期生  
一級大工技能士 安藤 太雅さん 2019年入社

父の背中を見て  
大工の夢を追う

お客様も大工であった宮園さん。その背中を見て育ち、「幼い頃から大工になろうと決めていました」と話します。「模擬住宅をつくる実習がある会社はほかにはなかった」と、育成体制の充実から絆工房ヤマサを選んだそう。現在は、戸建ての棟梁として絆工房の仲間とともに、日々奮闘しています。

指導棟梁からの  
愛情を実感

育成プログラム期間中は、「何度も、くじけそうになっただことありました」。しかし、先輩や仲間にも励まされ、乗り越えることができたそう。「先日、指導棟梁から最近どう？と電話をいただきました。いまでも自分を気にかけてくださり、あの厳しさこそ愛情だったと実感しています」。

絆工房ヤマサ3期生  
一級大工技能士 宮園 庸寛さん 2020年入社



鹿兒島のお客様のために  
大工の未来を僕たちがつくる

**安藤さん** 3年間の育成期間中は、宮園さんと同じ棟梁のもとで指導を受けていたが、今回、久しぶりに一緒に現場に入っていますね。

**宮園さん** あの時、棟梁に叱られて落ち込むこともありましたが、同じ社員大工である先輩の安藤さんにも話を聞いてもらったことで、乗り越えることができました。チーム大工になってから初めて、同じ現場になり、今回は自分が棟梁を担当していますが、安藤さんからのアドバイスが参考になっています。

**安藤さん** 兄弟子として、しっかりとサポートできればと思っています。育成期間が終わったら、さまざまな方とチームを組むので、自分のやり方だけを通すのではなく、周りの意見を聞きながら、柔軟に進めていくことが大

事になってきますよね。

**宮園さん** そうですね、私は丁寧な仕事も大切だと思っています。丁寧な仕事を積み重ねていくことが、お客様に信頼していただくことにもつながると信じて、日々取り組んでいます。

**安藤さん** 私も、お客様にもっと喜んでいただけるように、どんな仕事に対しても臆せず、何事にも挑戦し続ける大工でありたいです。これからの鹿兒島の家づくりは、私たちの腕にかかっていると自負して頑張っていきます。

**宮園さん** 未来の鹿兒島の家をつかっていくのが自分たちだと思えば、ワクワクします。これからもっと経験を積んで、未来に向かって前進していきます！

他の新人大工のインタビューも読める「絆工房ヤマサ」のリクルートHPはこちら！

